

障がい者活躍の新たな取り組みについて (支援機能「インクルージョン・ハブ」の新設、障がい者雇用共創事業の正式サービス化)

株式会社三菱UFJ銀行(取締役頭取執行役員 おおさわ まさかず 大澤 正和、以下 当行)は、障がいの有無など、一人ひとりの違いによらず、お互いに尊重し支え合う「共生社会」の実現に取り組んでいます。

その一環として、当行における障がいのある社員の活躍とインクルーシブな職場づくりを推進する機能「インクルージョン・ハブ」を新設するとともに、新規事業創出プログラム「Spark X」にて実証を行っていた「障がい者雇用共創事業“チャレンジドバンク”」(以下 チャレンジドバンク)を、当行の正式サービスとして提供します。

当行は、これらの取り組みを通じて、社会課題である「共生社会」の実現を進めていきます。

1. 障がい者活躍の新たな取り組みを行う背景

障がい者の職業生活における活躍においては、法令により企業等が一定の割合(法定雇用率)で障がい者を雇用することが定められており、障がい者の雇用者数や実雇用率は上昇しています。一方で、2025年の民間企業の法定雇用率(2.5%)の達成企業は46.0%に留まるほか、雇用の量の拡大だけでなく、雇用の質の向上への期待も高まっています。

また、人手不足が進むなか、企業・社会においても障がい者のさらなる活躍への関心が高まっていますが、企業において雇用の量と質を拡充するには、企業規模や業種等による差異はあるものの、主に以下の課題があります。

- ▶ 障がいのある社員のスキル・特性を踏まえた「業務のマッチング」や「業務習得・安定勤務のサポート」を行う、人員とノウハウの不足
- ▶ 雇用者数の増加に伴う、執務・休憩スペースの不足

当行は、全てのステークホルダーが新たなステージへ進むチカラとなるため、障がいの有無などによらず、一人ひとりが尊重し支え合い、活躍できる職場・社会の実現に取り組んでいます。このような社会課題に対応し、「共生社会」を実現することを目的に、以下の取り組みを行います。

- ① 当行の障がい者活躍を支援する機能「インクルージョン・ハブ」の新設
- ② 障がい者活躍を進める企業を支援する「障がい者雇用共創事業“チャレンジドバンク”」の正式サービスとしての提供

2. 障がい者活躍支援機能「インクルージョン・ハブ」の新設

「インクルージョン・ハブ」は、入社する障がいのある社員と配属予定部署を対象に、業務の習得と安定した勤務を支援し、障がいの有無によらずインクルーシブな環境でともに働くことをめざす、人事部ダイバーシティ推進室の機能です。

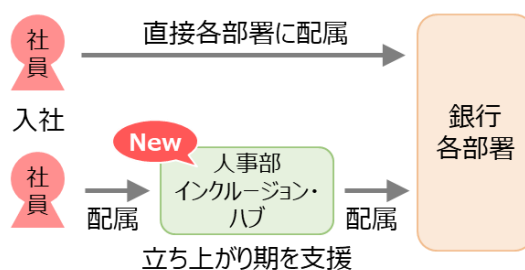
入社後、「インクルージョン・ハブ」に配属される障がいのある社員は、ノウハウと経験を持つ人事部行員のサポートを受け、新たな環境に慣れながら、配属予定部署の業務を習得します。その後、業務の習得と勤務の安定を確認したうえで、1年から3年後をめどに「インクルージョン・ハブ」の配属期間を終え、正式に各部署に配属となり、他の社員とともに勤務します。また、配属予定部署に対しては、スキル・特性を踏まえた業務やマニュアルの整備、採用後の正式配属に向けた業務習得や安定勤務のサポートを行います。

この機能により、配属部署を人員・ノウハウの両面で支援し、従業務務のミスマッチや立ち上がりの期間のサポート不足を抑制することで、障がいのある社員が、より多くの領域で他の社員とともに活躍していくことをめざします。

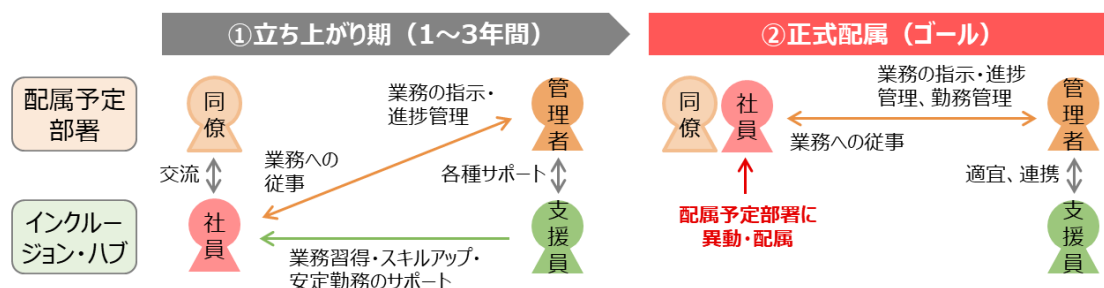
「インクルージョン・ハブ」の名称は、この機能が、障がいの有無によらず、お互いを尊重し、支え合い、活躍できるインクルーシブな職場・社会を実現する拠点“ハブ”となることをめざす想いを込めたものです。

2026年4月時点で約10名の社員が入社し、「インクルージョン・ハブ」にて業務の習得に取り組んでおり、今後も採用と配属部署・従業務を拡大していきます。なお、当行の障がい者雇用の募集は、ハローワーク等を経由して行っています。募集の詳細は、最寄りのハローワーク等の求人情報をご確認ください。

**採用後、直接各部署に配属となるルートに加え、
インクルージョン・ハブを経て各部署に配属となるルートを新設**



**人事部「インクルージョン・ハブ」にて、支援を受けつつ、
将来配属予定の部署の業務を習得し、正式配属をめざす**



3. 障がい者雇用共創事業“チャレンジドバンク”の正式サービスとしての提供

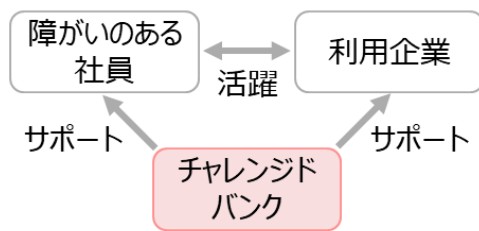
チャレンジドバンクは、障がい者活躍を進める企業と共に、障がい者雇用の場を創り上げることをコンセプトに、企業に不足する人員やノウハウを提供する伴走型のサービスです。

新規事業創出プログラム「Spark X 2023」にてグランプリを受賞後、2024年11月からサービスの実証を進め、複数の利用企業の課題に寄り添い、多くの障がいのある社員の就労と業務習得を支援してきました。その結果を踏まえ、Spark Xの実証期間を終え、2026年4月より、当行の正式なサービスとして提供しています。

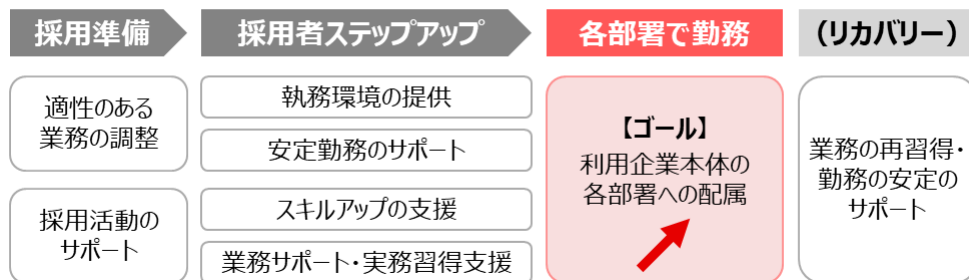
チャレンジドバンクの支援サービスは、利用企業が雇用する障がいのある社員が、安定して業務を実施できる力を得て、利用企業本体で他の社員とともに働けること、利用企業が、障がい者雇用に関するノウハウ・経験を得て、障がい者のさらなる活躍と共生社会の実現を進められることをゴールとしています。

「形式的な障がい者雇用にとどまらず、力を発揮し活躍してほしい」と考える企業と、その企業で働く障がいのある社員を支援し、「共生社会」の実現をめざします。

**利用企業で働く障がいのある社員と
利用企業をサポート**



**採用の準備、採用後の業務習得・安定勤務をサポートし、
利用企業本体の各部署で勤務することをめざす**



チャレンジドバンクのサービスの詳細および、Spark X 2023 グランプリ受賞後の歩みは以下をご確認ください。

チャレンジドバンク サービス詳細
<https://sparkx.bk.mufig.jp/challengedbank>

2024年1月22日 三菱UFJフィナンシャル・グループ PR TIMES
 『【MUFG】新規事業創出プログラム“Spark X 2023” 最終審査会開催！グランプリは「障がい者雇用サポート事業」』

2025年3月10日 当行お知らせ
 『MUFG・新規事業創出プログラム「Spark X」における障がい者雇用共創事業（名称「チャレンジドバンク」）のサービス実証開始について』

以上